

JACET Kansai Newsletter

No. 87 August 31, 2020

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 植松 茂男 (同志社大学) (Chapter President: Shigeo UEMATSU, Doshisha University)

事務局: 〒520-2194 大阪市瀬田大江町横谷1番5 龍谷大学 社会学部 今野 勝幸 研究室内
(Chapter Office: c/o Katsuyuki KONNO, Faculty of Sociology, Ryukoku University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

「With/Post コロナ社会を迎えて」

高橋 幸 (副支部長)

残暑お見舞い申し上げます。会員の皆さまは、連日の猛暑の中、いつもとは違う夏をお過ごしのことと思います。例年ですと、この時期は、学会シーズンに突入して、新しい出会いや久しぶりの再会に歓喜したり、意見交換に刺激を受けたりしていたかもしれません。また、学休期間を利用した、国内外の出張やフィールドワークに胸を躍らせていたかもしれません。

残念ながら、今夏は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のために、教育及び研究活動に様々な制約が生じております。教育面では、クラスター対策のため、キャンパスへの入構が制限されたり、多くの大学でオンライン授業になったりしたとうかがっています。SNS などでは、「オンライン課題が多い」「小中高生が通学できるようになったのに、大学ではまだ対面が制限されている」「頼れる人がいなく孤独だ」などの大学生の投稿と思われる、ネガティブな投稿がフィーチャーされたりしました。また、研究面では、「大学英語教育学会 (JACET) 第 59 回国際大会 (京都、2020)」をはじめとする多くの学会が中止もしくは延期となりました。海外出張に関しても、日本からの入国制限は少しずつ解除されてきましたが、まだ入国後に行動制限措置を課している国がほとんどです。

COVID-19 が私たちの暮らし、経済、健康などに与えた影響はいうまでもありませんが、研究活動に関する規範や価値観にも少なからずのインパクトがありました。例えば、従来、学会の大会では、会場を借りて、プログラムをできるだけ詰め込み、懇親の場まで準備するのが慣例となっていたように思います。私自身、参加費や出張費、スケジュールなどの限界から、できるだけ大規模な大会に参加しようとする価値観を少なからず持っておりました。しかしながら、これまでの大会のやり方を変えて、オンデマンド形式での発表配信や、Zoom などのオンライン会議システムを利用した開催など、三密を避けつつも、研究活動を滞らせないための、様々な工夫が考案され、現在、それが普通のこととなりつつあります。

オンライン化されたことにより、私たちは移動時間

や気候、研究資金などに影響されることなく、これまであまり参加したことのない分野の学会や研究会、コミュニティに参加することが可能となりました。中には、バーチャル・リアリティ (VR) 技術を用いて、仮想空間上に学会会場を構築して、できるだけ参加者同士のやり取りを実現できるような試みも行われています (https://scienceportal.jst.go.jp/reports/other/20200817_01.html)。

With/Post コロナ社会では、私たちもこれまでの規範や価値観を見直し、限られた状況下でどんなことが可能なのか、どのようにして課題をクリアするかを考え、より創造的にならざるを得ないのかもしれませんが、そのような皆さまの創造性は、研究だけでなく、多くの部分がオンライン化された教育の現場で多く発揮されたことと思います。ぜひその実践知を支部大会や支部紀要で、会員の皆さまと広く共有いただけたらと思います。

支部紀要では、現在、第 23 号へのご投稿を 9 月 30 日 (水) まで、受け付けております。今号から「実践論文」が新しい種別として導入されました。

実践論文...大学等における英語教育の実践研究に関する論文。授業改善やカリキュラム改革などの実践について、先行事例または理論的な背景を踏まえた理由づけと、具体的根拠を持った実践の記述や省察を提示することにより、教育改善や実践研究の発展に寄与する知見を提供するもの。

Practitioner Papers...Academic papers related to practical research on English education at the tertiary or other levels, which contain sufficient information of theoretical background or previous practice examples, offer innovative practices or provide concrete evidence to help promote a deeper understanding of practices, and thereby contribute to educational improvement and practical research development.

詳しくは、本ニューズレターの「紀要編集委員会からのお知らせ」にも詳細を書いておりますので、ぜひお目通しください。多くのご投稿をお待ちしております。(国立研究開発法人科学技術振興機構)

■ 支部研究会のご案内 ■

関西支部では11の研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介いたします。各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/group.html>) にてご確認ください。

The Kansai Chapter has the following 11 Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to our policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. Please refer to the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/group.html>) for more information, or contact the leader of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：時岡 ゆかり (大阪産業大学)

ytokioka[AT]las.osaka-sandai.ac.jp

副代表：赤尾 美和 (近畿大学)

miwa_0722 [AT]yahoo.co.jp

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：前川 貴史 (龍谷大学)

maekawa[AT] soc.ryukoku.ac.jp

副代表：西脇 幸太 (愛知文教大学)

hot_corner_55[AT]hotmail.com

◆ESP研究会 (English for Specific Purposes)

代表：藤枝 美穂 (大阪医科大学)

mfujieda[AT]osaka-med.ac.jp

副代表：スミス 朋子 (大阪薬科大学)

smith[AT]gly.oups.ac.jp

◆「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：米崎 里 (甲南女子大学)

michi[AT] konan-wu.ac.jp

副代表：相川 真佐夫 (京都外国語短期大学)

m_aikawa[AT] kufs.ac.jp

◆教材開発研究会 (Materials Development)

代表：仲川 浩世 (大阪女学院短期大学)

hgaeru[AT] yahoo.co.jp

副代表：板垣 静香 (関西学院大学)

sitagaki[AT]kwansei.ac.jp

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：神野 雅代 (四天王寺大学)

kanno[AT]shitennoji.ac.jp

副代表：高橋 寿夫

takahasi[AT]cwo2.bai.ne.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：葛田 和美 (関西外国語大学短期大学部)

kazumitsutada[AT]@gmail.com

副代表：高田 哲朗 (京都外国語大学)

thenrytakada[AT]gmail.com

◆ライティング指導研究会 (Writing Research)

代表：川西 慧 (武庫川女子大学)

kwns[AT] mukogawa-u.ac.jp

副代表：坂本 輝世 (滋賀県立大学)

kiyosakamoto[AT]@gmail.com

◆授業学(関西)研究会 (Developmental Education)

代表：村上 裕美 (関西外国語大学短期大学部)

hiromim[AT]kansai.ac.jp

副代表：工藤 泰三 (名古屋学院大学)

taizo[AT] ngu.ac.jp

◆科学英語教育研究会 (English for Japanese Scientists)

代表：湯浅 (玉田) 麻里子 (追手門学院大学)

maritama0617[AT] gmail.com

副代表：村尾 純子 (大阪工業大学)

giovanni[AT]bcc.bai.ne.jp

副代表：浅野 元子 (大阪医科大学)

asanomot[AT] gmail.com

◆アカデミックリテラシー研究会 (Academic Literacy)

代表：上條 武 (立命館大学)

tkamijo[AT]fc.ritsumei.ac.jp

副代表：長尾 明子 (龍谷大学)

nagao[AT]world.ryukoku.ac.jp

■ 2020年度第2回支部講演会のお知らせ ■

2020年度第2回支部講演会は、下記の通り「リスニング研究会」による講演を予定しています。支部の研究会の活動を知る良い機会です。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日時：2020年10月17日(土) 15:30~17:00
2. 会場：オンライン (Zoom) による開催。アクセス情報は、別途お知らせします。
3. テーマ：開発テキスト *Power-Up College English <Basic>* の実践報告とリスニングに関する多角的な実証研究について
4. 演題と講師：
(1)「*Power-Up College English <Basic>* の概要と実践報告」

神野 雅代 先生 (四天王寺大学)

- (2) 「第二言語のリスニング発達における“理解可能なインプットの重要性”-fMRI 脳機能イメージングデータからの検証-」

梶浦 眞由美 先生 (愛知淑徳大学)

- (3) 「気づきを高めるためのリスニング指導」

松村 優子 先生 (近畿大学)

5. 参加費: JACET 会員・非会員共に無料。非会員の み事前申込要
6. 使用言語: 日本語。質疑応答では英語も可

Kansai Chapter Second Lecture Meeting of AY 2020

The Kansai Chapter Second Lecture Meeting of the 2020 academic year by the Listening SIG will be held as follows:

1. Date: Saturday, October 17, 2020, 15:30–17:00
2. Venue: Online (Zoom). TBA
3. Theme: Practical Report on the Material Development of *Power-Up College English <Basic>* and Empirical Research on Listening
4. Titles & Speakers:
 - (1) Practical Report on the Material Development of *Power-Up College English <Basic>* (Ms. Masayo Kanno, Shitennoji University)
 - (2) The Importance of “Comprehensible Input” on Second Language Listening: Evidence from MRI Brain Imaging Data (Ms. Mayumi Kajiura, Aichi Shukutoku University)
 - (3) Noticing Enhancement in EFL Listening Instruction (Ms. Yuko Matsumura, Kindai University)
5. Fee: JACET member, free; nonmember, free. Only nonmembers need to pre-register.
6. Main language for presentation & Q&A: Japanese or English.

■ 2020 年度第 3 回支部講演会のお知らせ ■

2020 年度第 3 回支部講演会については、新型コロナウイルスの影響を考慮した上で詳細を決定致します。後日、支部ホームページやメーリング・リストにてご案内いたします。

Kansai Chapter Third Lecture Meeting of AY 2020

In response to the progress of the COVID-19 pandemic, the details of the Kansai Chapter Third Lecture Meeting of this academic year will be decided and announced later.

■ 2020 年度関西支部大会のお知らせ ■

2020 年度の関西支部大会は、オンデマンド形式によるオンライン動画配信にて開催されます。研究発表と実践報告も行われます。発表に採択された応募者には発表動画 (20 分) を各自作成して頂きます。

奮ってご応募下さい。(応募時に動画を提出頂く必要はございません。)

日程: 2020 年 11 月 14 日 (土) ~ 11 月 21 日 (土) (予定)

方法: インターネットによるオンデマンド動画配信
大会テーマ: 「変化の時代を生きる英語教育 2: テクノロジーと Well-Being」

基調講演: Marc Helgesen 先生 (宮城学院女子大学教授)

特別講演 I: 三宅 美博 先生 (東京工業大学教授)

特別講演 II: 小張 敬之 先生 (青山学院大学教授)

企画シンポジウム: 「新型コロナ禍におけるウエル・ビーイングの向上を目指したオンライン教育」

岩居 弘樹 先生 (大阪大学教授)

小張 敬之 先生 (青山学院大学教授)

ファシリテーター: 植松 茂男 先生 (同志社大学)

研究発表・実践報告申込: 7 月 17 日 (金) ~ 9 月 12 日 (土)

支部 HP (<http://www.jacet-kansai.org>) から、WEB フォームでお申し込みください。教員だけでなく、大学院生の会員による応募も大歓迎です。

<<申込要項>>

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限る
2. 発表者 (共同発表者を含む) は、JACET 会員に限る (申込時点で会員資格が必要)
3. 発表言語は、日本語または英語
4. 発表種別・時間は、以下の通り
研究発表: 理論的、実証的な研究成果に関する発表動画 (20 分間) を MP4 形式にて作成
実践報告: 授業実践やカリキュラム改革に関する発表動画 (20 分間) を MP4 形式にて作成
5. 応募に際して必要な情報
 - a) 発表形式: 研究発表、実践報告の別
 - b) 発表題目 (日本語および英語、英語の場合はタイトルの適語をキャピタライズして下さい)
 - c) 発表者情報 (共同発表者は氏名と所属のみ): 氏名 (漢字とローマ字)、所属 (日本語と英語)、E-mail アドレス
 - d) 発表に使用する言語 (日本語もしくは英語)

発表要旨

- a) 内容：研究発表の場合は、背景、目的、リサーチ・クエスチョン（仮説）、方法（対象・内容・期間等）、結果、及び考察を、実践報告の場合は、背景、方法（対象・内容・期間等）、結果、考察を簡潔に明記ください。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めないで下さい。
- b) 分量：日本語の場合は400字～600字、英語の場合は200～300 wordsとします。
- c) 審査は、支部研究企画委員会にて行います。
- d) 審査結果は9月21日（月）以降にE-mailにて通知します。必要に応じて修正依頼を行います。
- e) 審査結果通知後の辞退は原則としてできません。

Kansai Chapter 2020 Conference

Call for research and practical report presentations in video file format for the Kansai Chapter 2020 online conference. The submission period for abstracts is July 17 (Friday) through September 12 (Saturday), 2020. Each accepted applicant is to create a 20-minute video file in MP4 of their presentation. We truly look forward to receiving your abstracts. (**Applicants are not asked to submit a video file at the time of application.**)

Date: November 14 (Saturday) – 21 (Saturday), 2020 (Subject to change)

Method: On-demand distribution of video files online

Conference Theme: English Language Education in a Time of Rapid Change 2: Technology and Well-Being

Keynote Lecture: Professor Marc Helgesen (Miyagi Gakuin Women's University)

Special Lecture 1: Professor Yoshihiro Miyake (Tokyo Institute of Technology)

Special Lecture 2: Professor Hiroyuki Obari (Aoyama Gakuin University)

Planned Symposium: "Online education for bettering well-being in the midst of the Novel Coronavirus pandemic"

Speakers: Professor Hiroki Iwai (Osaka University)

Professor Hiroyuki Obari (Aoyama Gakuin University)

Facilitator: Professor Shigeo Uematsu (Doshisha University)

The conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English language education and/or related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time

of submission.

- 3) The language for presentation should be either English or Japanese.
- 4) Presentation types and time allotments are as follows:
Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. A 20-minute presentation is to be recorded in MP4 format and submitted beforehand.
Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum innovation. A 20-minute presentation is to be recorded in MP4 format and submitted beforehand.
- 5) Information requested in the application form:
 - a) Type of proposal (research paper or practical report)
 - b) Title of proposal (English and Japanese)
 - c) Information about applicant(s): name, affiliation, e-mail address
 - d) Language for presentation (English or Japanese)

Abstract:

- a) For a research paper, describe the background and purpose of the study, research questions (or hypotheses), research methods (participant characteristics, details, terms and so on), results and discussion. For a practical report, give the background of the report, research methods (participant characteristics, details, terms and so on), results, and discussion. Do not include references in the abstract.
- b) Should be 200-300 words if in English or 400-600 characters if in Japanese.
- c) If a non-native language of the presenter(s) is used in composing the abstract, have a native speaker of the language check it before submission.
- 6) Submission deadline: 11:59 pm, September 12th, 2020.
- 7) The proposals will be peer-reviewed by the Research Planning Committee.
- 8) Review results and feedback, as necessary, will be sent by after September 21st.
- 9) In principle, cancellation after the acceptance of the presentation is not permitted.

■ 紀要編集委員会より ■

今年度刊行の第23号支部紀要は、従前通り、大学等における英語教育およびその関連分野に関わる内容を扱った、「研究論文」、「研究ノート」、「実践報告」を募集しています。くわえて、今号より「実践論文」

が新しい種別として導入されました。

新型コロナ禍の大変な状況下ではございますが、研究・実践の成果を多くの皆さまと共有していただくために、ぜひ奮ってご投稿ください。

執筆に際して、下記ページの投稿方法や投稿要領を十分にご確認いただき、テンプレート (MS Word ファイル) をそのままご利用くださいますようお願い申し上げます。

<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>

投稿期限：2020年9月30日(水)午後11時59分

論文送付先：紀要編集委員会・事務局長
阪上 潤 (立命館大学)
jacetkj [AT] gmail.com

提出方法： [オンライン投稿フォーム](#)からの申込と、
電子メールによる添付ファイルの送付
(投稿原稿 (MS Word ファイルおよび
PDF ファイル) と書式チェックシートの
計3ファイル)

- ※ 受領後3日以内に事務局より確認の返信が届きません。万一、3日経っても返信が届かない場合には、上記のメールアドレスにお問い合わせください。
- ※ 提出方法の詳細は、投稿要領 (<http://www.jacet-kansai.org/file/2020toukouyouryou.pdf>) をご覧ください。

主な日程：

2020年 9月30日 (必着)	投稿原稿締切
12月1日	審査結果通知
2021年 3月31日	刊行

JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for publication in the *JACET Kansai Journal (JKJ)*, No. 23.

Papers should be related to research on English education at the tertiary, secondary, or earlier levels, as well as other relevant areas. The *JKJ* accepts “Research Papers” and “Research Notes,” and “Practitioner Reports” like before. In addition, we welcome “Practitioner Reports” which is newly introduced from this number.

Despite the current challenging circumstances brought about by the COVID-19, you are encouraged to contribute to our journal in order to share the findings of research and practice with many readers.

Please check the submission guidelines and use our template for preparing your manuscript. They are available at the following website.

<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>

Submission deadline: September 30, 2020 (Wed), 23:59 (JST)

Submission to: JACET Kansai Journal Editorial Committee
Secretariat, Mr. Jun Sakaue (Ritsumeikan University)
jacetkj [AT] gmail.com

Submission procedures:

Complete [an online submission form](#) on the JACET Kansai website. Then send the following **three files** by email to the Secretariat: manuscript in MS Word format, manuscript in PDF format, and format checklist prepared by the Editorial Committee.

- ※ If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please email the Secretariat to request confirmation.
- ※ For further information regarding the submission procedures, please refer to the submission guidelines (<http://www.jacet-kansai.org/file/2020toukouyouryou.pdf>).

Important dates:

Deadline for manuscripts: September 30, 2020

Announcement of editorial decision: December 1, 2020

Publication: March 31, 2021

■ 事務局より ■

Messages from the Kansai Chapter Office

本年度は新型コロナウイルスの影響により、学会活動の形にも大きな変化が強いられております。JACET 関西支部主催の講演会、および支部大会は、オンラインで開催される予定です。普段の学会とは違う形になりますが、よりよいものにするためにしっかりと準備を進めたいと思います。どちらも奮ってご参加ください。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報 (住所、メールアドレス、所属、電話番号など) が変わった方は、**必ず本部事務局 (jacet@zb3.sonet.ne.jp) まで**ご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。

特に、支部からの案内メールが宛先不明で数多く戻ってまいります。ご登録のメールアドレスをご確認

ください。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone number, and other information to **the JACET Main Office (jacet@zb3.sonet.ne.jp)**.

JACET関西支部 2020年度第2回支部講演会

The JACET Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting
of the 2020 Academic Year



- 2020年度第2回支部講演会を下記の通り開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。
- Fee: JACET会員・非会員共に参加費無料です。非会員のみ事前申し込みが必要です。Free for both JACET members and non-members. Need to pre-register for only non-members.
- Access: Zoomにてオンラインで開催予定です。アクセス情報に関して、詳しくはJACET関西支部ウェブサイト(<http://www.jacet-kansai.org/>)をご参照ください。

Date: 2020年10月17日 (土) 15:30-17:00

Saturday, October 17, 2020, 15:30-17:00

Venue: オンライン (Zoom)

Online (Zoom)

**Title: 開発テキスト *Power-Up College English*
<Basic> の実践報告とリスニングに関する
多角的な実証研究について**

Practical Report on the Material
Development of *Power-Up College English*
<Basic> and Empirical Research on
Listening basics

Lecturers & Abstract

Power-Up College English <Basic> の概要と実践報告

神野 雅代先生（四天王寺大学） Ms. Masayo Kanno (Shitennoji University)

JACETリスニング研究会では2016年より主たる研究課題として、One Unitが5つのSection (Listening, Reading, Speaking, Grammar & Writing) からなる総合教材の開発を手懸けてきたが、2019年4月に新セメスターシリーズ Power-Up College English の1作目にあたる基礎編、Power-Up College English <Basic> (南雲堂) を刊行することができた。その発刊にあたっての経緯や教材の構成や概要などについても、実際に教材を使用した指導の実践報告の中で紹介する。

第二言語のリスニング発達における“理解可能なインプットの重要性”

-fMRI脳機能イメージングデータからの検証-

梶浦 真由美先生（愛知淑徳大学） Ms. Mayumi Kajiura (Aichi Shukutoku University)

第二言語習得には、「理解可能なインプット」が重要であると言われているが、リスニング力向上において、その影響を神経学的に実証した研究は今まで多くない。本研究ではfMRIを使用して、音声理解に不可欠である音と意味のマッピングプロセス（音刺激からの意味検索）に関連している脳部位を特定し、その脳部位の活動が、学習効率（得点の伸長の個人差）を予測するかどうかを検証した。その結果、「理解可能なインプット」の重要性が脳活動からも示唆された。本発表では、行動データと脳機能イメージングデータの両面から「理解可能なインプット」の言語学習における重要性を検証した結果を紹介する。なお、この研究は鄭 嬌婷、ナタシャ河田、川島隆太、杉浦元亮（以上東北大学）、于 劭贇、木下徹（以上名古屋大学）各先生方との共同研究の内容である。

気づきを高めるためのリスニング指導

松村 優子先生（近畿大学） Ms. Yuko Matsumura (Kindai University)

第二言語習得は「気づき」(noticing)、「理解」(comprehension)、「内在化」(intake)、「統合」(integration)という認知プロセスを経過しながら進んでいく(村野井, 2006)。その過程で、ある特定の言語形式に対するnoticing(気づき)はその言語形式の習得にとって不可欠な第一歩といえる。本発表では、リスニング指導の影響を検証し、「気づき」を高めるためのインプット、アウトプット活動が学習にどのような影響を与えるかを考察する。

- ▶ 使用言語は日本語です。質疑応答時は英語・日本語どちらでも可です。This lecture will be given in Japanese. The Q&A session will be bilingual.
- ▶ For English information, please visit the JACET Kansai Chapter Website (<http://www.jacet-kansai.org/>).